

手のひらに、江戸

ひのきさいくし

檜細工師

三浦宏の粋



江戸庶民の暮らしたくを
楽しく想像して
ください

2024

9.21^土-11.11^月

致道博物館
CHIDO MUSEUM

開館時間/9:00~17:00(受付16:30まで) 会場/致道博物館 美術展覧会場
入館料/一般1,000円、高大生400円、小中生300円(20名以上で団体割引有り)

主催/公益財団法人致道博物館(山形県鶴岡市家中新町10-18 Tel.0235-22-1199)
共催/山形県・公益財団法人山形県生涯学習文化財団・鶴岡市教育委員会

9/21^土14時~15時 作品を覗きみる
ギャラリーツアー

案内:三浦佳子氏(三浦宏氏長女)
会場:致道博物館美術展覧会場 ※申込不要、直接会場へ

10/20^日14時~16時 江戸っ子の生活がわかる
記念講演会「江戸町人の暮らしと住まい」

講師:市川寛明氏(江戸東京たてももの園 園長)
会場:荘内神社参集殿 ※要申込:先着150名

11/3^日14時~15時 三浦宏さんの人と技
スペシャルトーク

お話:林直輝氏(日本人形文化研究所所長)
会場:致道博物館美術展覧会場 ※申込不要、直接会場へ



江戸の集合住宅「長屋」作品縮尺1/10「棟割長屋」と「割長屋」
 庶民のほとんどは長屋で暮らした。裏通りの路地両側に長屋が並び、路地中央にはドブ板でおおわれた汚水を流す溝があった。台所と小さな部屋だけの広さ約6畳の家に、一家族が暮らした。厨（かわや＝トイレ）は共同で、風呂は有料の銭湯「湯屋」しかなかった。

手のひらに、江戸
 三浦宏の粹

2024
 9.21^土-11.11^月



ミニチュアが魅せる江戸の下町
 庶民の暮らしに思いを馳せて

浅草の風呂桶職人の家に生まれ、優れた技術で檜風呂や手桶などを製作していた三浦宏（1926-2019）。時代の流れに伴って木製風呂桶の需要が減るなか、子どもの頃から親んだ和船の模型づくりに取り組みます。

確かな職人技で再現されるミニチュアは次第に評判となり、江戸最古の人形の老舗「吉徳」をはじめ、各方面からの依頼が舞い込み、亡くなるまでの38年間に100点以上の作品を手がけました。

本展は、長屋・湯屋・呉服屋などの代表作品（縮尺1/10）を中心に約70点を展示する、過去最大級の展覧会です。

徹底した調査、繊細な技、幼い頃からの経験や「記憶の中の匂い」が吹き込まれた作品からは、江戸下町の叙情と庶民の暮らしぶりが感じられます。

火消し現場のシンボル「纏（まとい）」
 日常的に火事がおきた江戸では、町火消が編成され48の「組」があった。目印の纏は組の団結の象徴でもあった



イベント案内



9/21^土14時~15時 作品を覗きみる
 ギャラリーツアー

案内：三浦佳子氏（三浦宏氏長女）
 会場：致道博物館美術展覧会場 ※申込不要、直接会場へ



「金魚鉢」

10/20^日14時~16時 江戸っ子の生活がわかる

記念講演会「江戸町人の暮らしと住まい」

講師：市川寛明氏（江戸東京たてもの園 園長）
 会場：荘内神社参集殿 ※要申込：先着150名

☎0235-22-1199
 ✉reserve@chido.jp



「屋台 天麩屋と寿司屋」

11/3^日14時~15時 三浦宏さんの人と技
 スペシャルトーク

お話：林直輝氏（日本人形文化研究所所長）
 会場：致道博物館美術展覧会場 ※申込不要、直接会場へ



「人形」



三浦宏氏 略歴
 大正15年生まれ。父は風呂桶職人、祖父は船大工。家業の「三浦風呂製作所」を継ぐが、需要減もありミニチュア制作を始める。
 昭和56年（1981）、辻村寿三郎氏が花魁人形を手がける「吉原」展の妓楼製作を引受け、大反響となる。以後、各地の展覧会に作品を出品。
 令和元年（2019）6月永眠。享年92歳。



致道博物館
 CHIDO MUSEUM



- JR鶴岡駅より
 バス10分
 「致道博物館前」
 下車徒歩2分
- 山形自動車道
 鶴岡ICより
 車で5分
- 庄内空港より
 車で20分